

オープン市場短信 (2008年12月)

2008.12.12

◆11月のCP市場動向

11月のCP新規発行額は約4兆2,300億円で、期落ち(約4兆3,500億円:当月発行分含む)をやや下回る結果となった(除く、ABCP・金融機関発行CP)。8日に発表された日銀の「貸出・資金吸収動向」によると、11月末時点の銀行等のCP引受残高(13兆6,581億円)は前月比約8,500億円増加(ABCPが発行増となっていることが要因か)しているものの、前年同月比では9.9%の減少となっており、やはり発行環境の厳しい状態が窺われる。前月同様、CP引受のメジャープレイヤーであるメガバンクの引受余地が低下していると指摘できよう。

また、利下げによるインターバンク誘導金利水準の低下から、11月上旬には発行金利・現先取引レートともに低下に転じたが、クレジットリスクの高まりと発行増により、中旬以降CP発行レートは反転し上昇地合いとなった。

≪格付け別の発行レート≫

11月のCPレートレンジ

単位 %

格付	1ヶ月		2ヶ月		3ヶ月	
格付 a-1+(オペ適格)	0.480%	～ 0.810%	0.590%	～ 0.950%	0.610%	～ 1.850%
格付 a-1(オペ適格)	0.990%	～ 1.790%	0.795%	～ 1.900%	1.010%	～ 2.200%
格付 a-1+(リース銘柄)	0.590%	～ ケ1.00%	0.650%	～ 1.000%	0.675%	～ 0.999%
格付 a-1(リース銘柄)	0.750%	～ 2.000%	1.450%	～ 1.900%	1.350%	～ 2.890%
格付 a-2	1.030%	～ ケ2.50%	1.800%	～ ケ3.00%	1.850%	～ ケ3.00%

≪CP オペ≫

日銀は、企業の資金調達を円滑化する事を目的に、CP買い現先オペの積極的活用を行うことを10月末の金融政策決定会合に於いて発表した。それを受けて、11月中のオペは計5回実施されオファー金額は2兆6千億円に上った。

日銀CP買い現先オペ 結果

(単位:億円)

実施日	オファー金額	期 間			応札額	落札額	足切レート	平均落札レート	按分比率
11月6日	6,000	11/10	～	12/22	5,285	5,285	0.100%	0.303%	全取
11月14日	6,000	11/17	～	12/1	5,704	4,974	0.100%	0.320%	全取
11月20日	6,000	11/25	～	1/5	6,706	5,986	0.110%	0.275%	79.90%
11月25日	4,000	11/27	～	1/8	4,767	3,983	0.120%	0.207%	47.50%
11月27日	4,000	12/1	～	12/15	7,190	4,010	0.420%	0.526%	全取

《ABCP》

11月末のABCP発行残高は、約3兆7,173億円と前月比約5,761億円の大幅増加となった。9月のリーマンショックで、10月末時点では大きく発行が落ち込んでいた銘柄の復活発行がその要因と思われる。しかし、前年同月（約4兆831億円）比では、4,096億円の減少でABCPの発行環境は必ずしも改善していないと指摘される。

《短期社債残高》

証券保管振替機構発表によると、短期社債の11月末発行残高は先月に引き続き減少となり、18兆4,616.29億円に止まった。

格付け別に見ると、最上位格銘柄が前月比7,155億円の増加したのに対し、その他金融の割合が多いa-1格銘柄では前月比9,962億円の大幅減少であった。

各業態別では、一般事業法人で1,082億円、ABCPが5,761億円前月比増加したのに対し、その他金融で6,570億円、金融法人で524億円減少となった。

発行登録企業数は483社に達しているが、三井住友銀行が初発行を行ない、既発行企業は461社になった。

《現先市場》

月中現先レートは、10月末の日銀の利下げを受けて、月中を通してオーバーナイト物・ターム物を問わず、0.44%前後から0.50%近辺での出会いとなった。先月同様、CPのクレジットリスクを嫌い運用様子見とする投資家も依然として多く、ロンバート金利に近傍する取引レート水準での取引が多かった。

◆ 12月のCP市場動向

12月中のCP償還額は約4兆3,500億円で、先月同様前年同月比を下回る動き（約4,100億円）となっている（除く、金融機関発行CP・ABCP）。

今月も、前月同様賞与資金手当て等の発行や企業の予防的資金調達もあって、発行が多くなると思われるが、発行環境は依然として厳しく大幅な発行増には繋がらないだろう。

発行レートは、電力会社等最上位銘柄と一般銘柄では銘柄間格差が極端に生じる動きとなっている。一般事業法人では、年越し物で1.00%近辺半から1.70%前後の出会い。リース銘柄では、1.60%近辺から2.00%台半ばでの出会いを、それぞれ予想する。

《CPオペ》

CPオペは、今月11日までに期日ロールと新規で4回のオペが実行された。今後も淡々と実施されると見込まれ、今月も発行が多く各回のオペ応札も買入れ予定額を上回っていることから、ロール分を含め少なくとも3回のオペオフアがあると思われる。

《現先市場》

足元現先レートは、レポ金利を上回り0.35%近辺から0.40%前後となっている

(12/11 現在)。年越し現先レートは、ロンバート金利に接近する出会いとなる可能性が高いだろう。

参考資料

業種別残高内訳

			単位: 億円
業 種	11月末残高	10月末残高	増減
事業法人	74,257	73,175	1,082
その他金融	53,650	60,220	▲6,570
金融機関	19,536	20,060	▲524
(銀行等	11,186	11,311	▲125)
(証券	8,350	8,749	▲399)
ABCP	37,173	31,412	5,761
計	184,616	184,867	▲251

(注: 買入消却分含む)

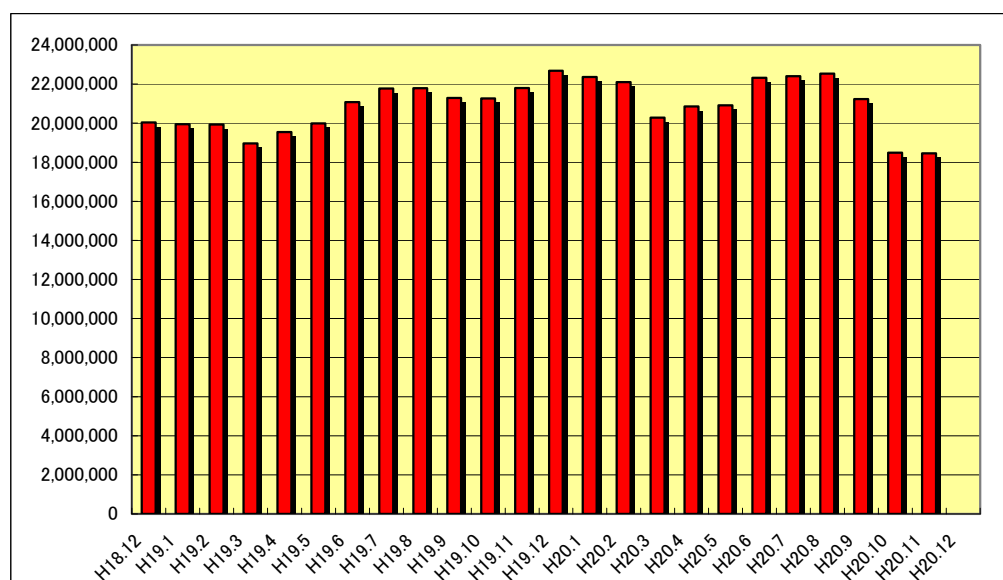
短期社債月末残高 (H18年12月~H20年11月)

■ 短期社債月末発行残高

11月末発行残高: 18兆4,916.29億円

発行登録企業: 483社 (発行実績あり461社)(単位: 百万円)

(過去2年間の残高を表示)



11 月末発行残高ベスト 20

(単位:百万円)

	発行企業名	11月末残高	10月末残高
1	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	753,470	552,640
2	三菱UFJリース	740,300	816,700
3	エイペックス・ファンディングコーポレーション	641,350	433,680
4	三菱商事	600,000	625,000
5	オリックス	576,100	687,700
6	三井住友ファイナンス&リース	506,900	576,300
7	アルカディア・ファンディング・コーポレーション	464,400	237,310
8	日産自動車	444,000	440,000
9	新日本製鐵	369,000	289,000
10	東京電力	330,000	445,000
11	興銀リース	323,900	344,700
12	みずほコーポレート銀行	300,400	329,100
13	東京リース	298,900	306,500
14	新日本石油	293,000	440,000
15	芙蓉総合リース	289,400	313,700
16	三菱UFJニコス	279,000	252,000
17	ジェーエフイーホールディングス	277,000	250,000
18	シャープ	260,000	142,000
19	フォレスト・コーポレーション	259,944	291,666
20	住友信託銀行	243,300	268,300

ゴシック文字…前月数値横這いか増加

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会